

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社 メディカルウイル
(ユニット名)	グループホーム 輝望の家
所在地 (県・市町村名)	鹿屋市輝北町上百引1919-1
記入者名 (管理者)	入佐 敬子
記入日	平成 20 年 8 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	朝の申し送り時、理念を意識図けるように、みんなで声に出して読むようにする。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	これから地域の行事に参加した時、利用者家族や運営推進会議を活用して少しずつ地域の方々へも浸透して行く。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	地域の方々と気軽に付き合ってもらえるように、日々努力をする。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	ホームの活動等を紹介し、まずは振興会の会員の皆様に来て頂ける様に働きかける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議に行政の方や地域の民生委員の方にも参加して頂き、情報交換行っている、要請があれば集落に出向きレクリエーションの指導を行った。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者は自己評価及び外部評価の意義は十分理解し、事業運営の中で改善事項があれば改善に取り組む姿勢はある。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に行っている民生委員や地域の方と意見交換を行いサービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	制度的な所での市町村担当者との交流はある。又、運営に関するマニュアルなどの作成などで意見交換をする事がある。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度があることは知っているが、その事例がない為、実際の活用はおこなっていない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待防止に関する委員会は設置している。職員会議等でそういう事例がないかは確認している。又、職員同士で介護内容についての話し合い等で注意を払い、防止に努めて行く。	○	時々スタッフの乱暴な言動や、敬愛の念を忘れたような言葉が聞かれる事があるので、今後はもっと職員と話し合いの機会を多くして行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時重要事項説明等を行い、利用者、家族等に理解、納得を図っていると共に同意書に係る事も説明と理解を頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し面会時、家族が職員や管理者に話しやすい環境作りをしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時、日常生活面は報告し、健康状態面はその都度電話にて報告をしている。金銭管理面については、現金出納帳を作り、一ヶ月に一回家族面会時に報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付に関しては契約の際説明しているが、以後も来訪された時は必ず面談時間を持ち、不満や不安などを聞く事になっている。	○ 訪問の少ない家族についても意見や苦情の表出について配慮して行きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を開き、意見を聞く場の提供を行っている。内容は議事録として残し、実施、評価、展開、次回の職員会議で行う。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は状況に応じた対応が出来るように勤務シフトを組み柔軟な体制が取れるよう努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が働きやすい環境をつくり、離職を減らす努力をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>地域や自治体が主催する講習、研修会に参加する。</p>	○	職場内で受講者の報告を聞いたりカンファレンスを行うなど勉強の機会を設けて行く。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他グループホーム、施設に訪問したり地域の施設と情報交換に努めている。</p>	○	今後は他施設と相互に業務体験を行うなど、ネットワークと地域全体の介護の質向上を目的とした計画に取り組みたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>独立した休憩場所がなく、十分な休憩時間も確保出来ないが、業務はゆとりを持って、こなせるよう最大限、努力、工夫している。</p>	○	センター長もホームに来ており、連携を密にし、利用者の話を聞いたり、職員の業務や悩みを聞いて把握しています。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>出来る限り把握し、努力しているが、これからは個々の面談などで、意見を聞き取れる時間を作り、お互いの真意が通じ合うような職場にして行きたい。</p>	○	何を提案しても反応がなく張り合いがない職場と、言われないように、専務、センター長、職員と一緒に向上出来る、職場にしたいと思っている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>サービスの相談があったときは、センター長と必ず、本人、家族に会って状況、状態、家族の意向などを受け止め信頼関係が築けるように努めています。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の不安や希望を十分に聴き、信頼関係を築く事が出来るように努力し、相談に応じている。</p>	○	今後も十分に話を聞きながら、家族が安心出来るまで気兼ねなくホームに出向いて頂けるような雰囲気作りをしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族から相談、要望があった時は十分話し合っで説明したうえで必要な支援、サービスを検討し対応に努めている。	○	利用者の笑顔が多く見られるような支援を継続的に実施して行く。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してホームで生活出来るように、家族に見学を勧め職員が他の利用者ホームの雰囲気馴染むことからサービスを始めるように努力していく、又家族に面会の協力をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考え方をもち尊敬の念を忘れず支えあう関係を取り組んでいる。	○	これからも信頼関係が築けるように係って行き、素晴らしい事、ありがたい事をきちんと伝えて行きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に対しては、実際一緒に生活をしていないながらも利用者の生活状況を報告して行く中で家族の思いを引き出し、共に利用者の生活を支援していくという関係を築き、ご家族と一緒に支援していく関係を築いている。	○	家族とのつながりが、遠くならないように連携を十分に取って支援して行く。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の気持ちを理解し、利用者の良い面を伝える事で家族が安心して来訪出来るように配慮して行く。	○	利用者と家族が離れていても、心がつながっていると言う安心出来るサービスを提供出来たらと考えている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービス利用者も知人が多い事、又近所の方も来訪する機会が多いので今後も良い関係が継続されるよう配慮して行く。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が仲良く過せるよう職員が積極的に働きかけている。洗濯物たたみなど利用者も加わり会話しながら進めているが、お互いに助け合ったり、譲り合っで作業している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設、転居や入院の場合は折を見て訪問したり、見舞ったりしている。又家族から不安や困り事の相談を受けた時は適切に対処して行く。		
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員に日常の会話や表情、様子の中から本人の意向を汲み取るよう努力している。又支援は職員側の一方的な押し付けにならないように本人の気持ちや希望を最優先して行っていくようにする。	○	自己表現の難しい利用者など含め日常の中での行動や会話から本人の思いや希望の把握に努めて行きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当、ケアマネージャーや、サービス担当者から情報を得る事が多い、職員は日常会話の中で職業や生活状態を聞きだすように心掛けている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活や行動から出来る事を見つけ出し、その人にふさわしい、援助を考え実践できるよう努めて行く。	○	申し送りで一人一人の状態を把握、共有し、変化に敏感になれるように毎日の中で係って行きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを基に、ミーティングや職員会議で意見やアイデアを出し合い本人がより良く暮らす為の個別の介護計画を作成して行けるよう努力している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々様子も変わる事もある中で柔軟に対応、見直しをし、必要時は本人、家族、職員、主治医と話し合い見直ししている。	○	必要に応じて対応、見直しをして統一した関わりをもつようにして行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記載は各シフトの勤務者がしており、引継ぎと合わせて確実な情報の共有を心掛け計画の実践に役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院や送迎など必要な支援に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員やボランティア、消防の人と連絡取り合い地域での安全な生活を続けられるよう配慮していく。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設を利用する事はないが、訪問理、美容サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の時、包括支援センターの職員が参加して下さり、色々相談や協力をして利用している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時より利用者やその家族が希望する主治医と連絡を取り治療を継続している。定期受診に関しては、送迎付き添いを行い、日常生活状況や症状を報告している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要な利用者は専門医の受診を定期的に援助している、又利用者の状況に応じて、家族へ専門医受診の必要性を説明し納得を得るようにしている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームに3名の看護職が常勤しており職員の相談や質問に応じながら利用者の安全、健康的な生活が続けられるよう支援している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院された場合は、入院前の生活などを記載したサマリーとともに説明を行い、入院中も担当の医師や看護師と連絡を取りながら早急退院が出来るようにしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族と良く話し合い、かかりつけ医の協力を得て納得できる介護の方針を共有して行きたい。	○	今後家族会を計画し、面会時などを通じて本人、家族と十分に話し合いをして行きたいと思っている。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族と十分話し合い利用者が安心して過ごせるように、急変したらずぐに、かかりつけ医に行けるよう連携を図る体制をとって行きたい。	○	終末医療に未だ関わりはないが、今後の変化に備え、当事業所の方針に沿って備え検討して行く。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族と相談のうえ、新しくケアにあたる関係者には文書による介護情報を提供し、本人の不安や混乱を最小限にするように努めて行く。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	利用者の思いを叶えられるように支援して行きたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導を時間毎に行うようチェック表を使用している、最近はそのパターンのつかめてきているので、職員は利用者に向けた排泄介助を考えて実践している。	○	利用者1名はウロストーマ設置中2名は自立で計3名が昼夜共に布パンツ使用中である。後6名は日中リハパンツ、夜間は2名オムツ使用中。7名防水シーツの利用で安心して熟睡されている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則として毎日入浴できるよう実践している、当ホームの利用者はほぼ全員毎日の入浴を楽しみにしておられる。入浴後は脱水予防の為水分補給も行っている。	○	その日の状況で柔軟性を持って対応出来るようにしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個室なので周囲に迷惑でなければ、休憩も就寝も自由にして頂いている、夜間寝つけずホールに出て来られた時にはお茶など飲み、話をしたり、聞いたりして、折を見て居室に誘導して休んで頂くようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人に出来そうな仕事などを頼み、感謝の気持ちや、褒め言葉を伝え、それがその人の役割になって継続出来るように援助している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり管理している、利用者1名は自己管理出来ており、病院受診や外出時は自分で支払って頂くようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日を選び出来る限り散歩に出たり、ドライブや遠足にスタッフ手作り弁当を作って外出している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者全員で外出して見たり、個人の思い出の地へ外出している。	○	温泉に行きたいと利用者の希望があるが、まだ実現出来ないの今後、検討して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者及び家族の事情もある為、利用者自ら電話したり手紙を書いて頂くまでには至っていない。	○	今後レクリエーション時、利用者の出来る範囲で手紙を書いたり、絵手紙を作って頂き交換ができるように検討して行く。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホームへの出入りはいつでも自由で玄関にはプランターを置いて家庭的な雰囲気を心かけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていないが、日々の介護行為の中で、転倒、転落等の危険性を考慮して、介護の方法が身体拘束に近い状況になっていないか等の話し合いの機会を設けている。	○	拘束については、全員が十分気配りしているが、勉強会の場を設け知識を高めていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵をかけず、注意深い見守りで危険や事故を防ぐ取り組みをしている。日中は玄関と居室の外側にセンサー設置している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は業務を出来るだけ利用者と同じフロアで行うようにしている、記録も食堂のテーブルを利用し利用者とは話したりしてさりげなく目配りしている。	○	夜間は1時間毎の巡視で睡眠を妨げないよう配慮しながら安全を確認している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	現状では保管に関しては特に何も設けていないので、話し合い取り組んで行く。	○	危険性のある漂白剤、洗剤などは鍵のかかる所に置くように検討中。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、事故報告書を作成し事故が発生した場合は報告書を書き原因、改善、予防対策を検討し家族へ連絡する。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護職員が救急講習を受けているので、今後定期的に勉強会をして職員への周知を図って行く。	○	救急時の対応について自信をもって対応出来る職員が少ない、実技訓練の方法を検討して行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議を利用し協力、依頼をして行く。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては入居時に管理者が家族に説明し理解を得るようにしている、過剰な予防策は取らず出来るだけ自由に過ぎて頂ける事を説明し納得していただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、本人の表情、様子を把握し体調の変化や異常時はすぐに看護師へ報告されて必要に応じて受診などの対応をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を経過記録に閉じてあり、いつでも確認する事が出来る、又変更があった場合は申し送りをしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分チェック、食事チェック表を毎日記録し牛乳などで自然排便が出来るようにしている、どうしても困難な方については、主治医と相談し下剤などで調整している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	習慣として毎食後の口腔ケアを行っている、自分で出来る人は声かけにて自分でされる、出来ない人は職員が義歯洗浄、口腔ケアを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を毎日記録し本人の身体状況に応じて、分量を調整している。	○	今後、利用者が食べたい物を取り入れ、栄養バランスを考え利用者に喜んで頂ける食事を提供していくようにする。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し予防対策に全員が意識し発生しないように心掛けている。	○	調理機材の衛生管理、消毒の実行をし清潔に努めて行く。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	保管分を出来るだけ減らして、日々新鮮な材料が使用できるように心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには、花鉢を置いて明るい感じを出し入口は段差をなくしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井は吹き抜けで、広々としたホールは開放感があり居心地よく過せるよう工夫してある。	○	音については周りが山林で静かな環境の所にあり室温、光についても職員間の気づきの申し送りや本人の希望で対応している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、居間など工夫して気楽に気持ちよく利用出来るように工夫しているが職員の関わりでもっと気持ち良く利用できるようになると思う。	○	食堂と居間がオープンスタイルなので一人きりになる空間にないが、食堂の方で一人で座って頂いたり、椅子の工夫をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真、メッセージなどをいつも見れる所に張っている。	○	馴染みの物を活かせるように工夫して行く。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各部屋には換気やエアコンで空調ができるようになっている。	○	個々の部屋の室温についてはその都度本人の希望を聞いたりして調整している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりを設置し移動しやすいように配慮している、建物内でも必要に応じ歩行器や車椅子を使用できるように廊下を広く取りバリアフリーになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の戸に表札をかけ、トイレの戸にも分かりやすいように大きく文字を書いている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の一部にウッドデッキがあり天気の良い日などは外の椅子に座り外気浴を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

※年間行事を設けて、その月にあった行事を行っている。

※専務、センター長が利用者に優しい思い、気配り、声かけを実行している所。

※総合ケアセンターとし、ミニデイサービス、デイサービス、グループホームと三事業所が一体化しており、管理者、職員同士、連携を取り合い御利用者様本意のケア向上に実践している。